

【樹木の部屋】

ヒヨクヒバ (ヒノキ科ヒノキ属 Chamaecyparis pisifera cv Filifera)

和名：ヒヨクヒバ(比翼檜葉) **別名**：イトヒバ **英名**：

ヒノキ目 常緑高木 **原産地**：日本

花言葉： **花色**：



← 写真-1 ヒヨクヒバ

撮影日：2020年04月26日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：Mさん

↘ 写真-2 ヒヨクヒバの小枝

撮影日：2020年04月26日も

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：Mさん



← 写真-3 ヒヨクヒバの葉

撮影日：2020年04月26日

撮影場所：奈良市郊外にて

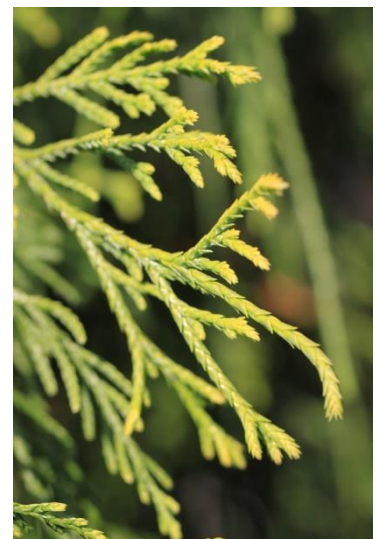
撮影者：Mさん

→ 写真-4 ヒヨクヒバの葉

撮影日：2020年04月26日

撮影場所：桜井市郊外にて

撮影者：Mさん



ヒヨクヒバは、サワラ(ヒノキ属)の園芸品種です。細枝や葉先が糸のように垂れ下がることから名付けられたそうで、

ヒバは「桧葉」でヒノキ科の園芸品種を表します。日本庭園、社寺境内に多く見られる樹木です。ヒヨクヒバの魅力は垂れ下がる「糸」にありますが、その長さは個体や環境によって変化が大きいそうです。

樹形は釣鐘形。幹はサワラやヒノキと同じように直立し、大きな木では直径2 mほどになります。庭園では頻繁に手入れされてコンパクトにまとまっていますが、放任すれば大きな円錐形の樹形となり、細枝は垂れ下がって糸状になります。樹皮はサワラと同じで樹齢を重ねると縦に薄く剥離します。サワラよりも成長が遅く、樹形が大きく乱れることは少なく、病虫害の発生もないため、手入れが楽な庭木といえます。広い庭でも狭い庭でも、その場に応じた樹形に整えられます。

ヒヨクヒバの葉は鱗状の小さな葉の集まりで、小葉の先端はサワラと同様に鋭く尖っているため、触れるとチクチクします。

開花期は春(4～5月)で、雌雄の花が咲き、小さくて地味であり、ほとんど目につかないが叩けば花粉が飛び出します。雌花の後にはサワラと同じ実ができ、実は自然に裂け、中から種子が飛び出します。繁殖は挿し木によることが多いそうです。日向よりはむしろ半日陰を好みます。一方、日陰にも強いが、日陰では枝葉が間延びして見栄えがしなくなるそうです。